

体験活動を通して、自分・友だち・家族・
自然を大切にする児童の育成を目指して
山口市立大海小学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：8学級
- 児童数：134人
- 教職員数：13人
- 活動の対象学年：5・6年生

② 体験活動の観点などから見た学校環境

- 自然豊かな大海湾に面し、海岸線に沿って漁村地区を含む集落が街村形態をなしている。
- 気温は温和で年間を通じて過ごしやすいが、夏季は台風による被害を受けることが多い。
- 地域の方は、学校行事にも積極的に参加してくださり、学校教育に大変協力的である。

③ 連絡先

- 〒754-1101
山口市秋穂東2299
- 電話：083-984-2253
- FAX：083-984-4063
- ホームページ：
<http://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ohmi-e/>
- 電子メール：ohmi-e@yamaguchi-ygc.ed.jp



体験活動の概要

① 活動のねらい

- 仲間と共に学ぶ活動
 - ・友だち、家族、地域社会などのかかわりを通してコミュニケーション能力を育成し、温かい人間関係づくりを図る。
- 自然や文化にふれる活動
 - ・自然の中で行われる体験活動を通して、自然の中で過ごす楽しさを味わわせるとともに、感動する心を育てる。
- 自立の心を養う活動
 - ・長期間家庭から離れた生活を送ることにより家族を大切にする心、自立の精神を培う。

② 活動内容と教育活動上の位置付け

- ボランティアなど社会奉仕にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間2時間)
- 自然にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間21時間、理科2時間、体育3時間)
- 勤労生産にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間4時間、家庭科4時間)
- 文化や芸術にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間、道徳1時間)
- 交流にかかわる体験活動
(総合的な学習の時間4時間、道徳1時間、特別活動1時間)
- その他これらが複合した体験活動
(総合的な学習の時間14時間)

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

- ・仲間との様々な体験活動を通して、日頃気づかない友達のよさや互いの成長に気づき好ましい人間関係を培う。
- ・自分たちだけで生活する体験を通して、家族について考え、家族を敬愛し、大切にする心情を培うとともに自立の精神を養う。
- ・自然の中で行われる体験活動を通して、自分たちが育ったふるさと山口県の自然を味わい、ふるさとについて考えるようにする。

(2) 全体の指導計画

期日	体験活動の概要	教育課程上の位置づけ (時数)	期日	体験活動の概要	教育課程上の位置づけ (時数)
7/5	事前学習	総合的な学習の時間(2)	10/15	事前学習	総合的な学習の時間(2)
7/11	入所式 オリエンテーション シーカヤック・ボードパドリング 座禅	総合的な学習の時間(2) 総合的な学習の時間(3) 総合的な学習の時間・ 道徳(1)	10/22	りんご園体験活動 入所式 オリエンテーション 自然観察 天体観測	総合的な学習の時間(2) 総合的な学習の時間(2) 総合的な学習の時間(2) 理科(1)
7/12	カッター研修 野外炊事	体育(3) 総合的な学習の時間(2) 家庭科(2)	10/23	ネイチャートレイリング登山 オリエンテーリング 家族への手紙	総合的な学習の時間(3) 総合的な学習の時間(2) 特別活動・道徳(1)
7/13	家族への手紙 海浜探索	特別活動・道徳(1) 総合的な学習の時間・ 理科(1)	10/24	ディスクゴルフ 火おこし体験 野外炊事 ナイトウォーク	総合的な学習の時間(2) 総合的な学習の時間(2) 家庭科(2) 総合的な学習の時間(1)
	奉仕活動 退所式	総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(1)	10/25	十種ヶ峰森のチャレンジ 地域の方との交流会	総合的な学習の時間(6) 総合的な学習の時間(2)
7/16	振り返りの活動	総合的な学習の時間(2)	10/26	奉仕活動 退所式 津和野ハイク	総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(1) 総合的な学習の時間(2)
			10/29	振り返りの活動	総合的な学習の時間(2)

2 活動の実際

(1) 事前指導

- ①年度初めの学級懇談会を利用して保護者への説明会。(事業の趣旨説明, 日程説明等)
- ②保護者へ児童の健康面・緊急連絡先等についての事前アンケートの実施。
- ③参観日を利用して保護者・児童合同の説明会。(研修内容, 準備物等の説明)
- ④保護者アンケートをもとに養護教諭による児童一人ひとりとの面談。
- ⑤児童対象の最終オリエンテーションの実施。

(2) 活動の展開 (前期) 於: 油谷青年の家

	7月11日(水)	7月12日(木)	7月13日(金)
午前			
午後			
夜			
概要	入所式, オリエンテーション実施後シーカヤック, ボードパドリングを実施。全員初めての体験だったが楽しく活動できた。全員初めての体験で緊張していたが全神経を集中して取り組むことができた。午後と夜で動と静のメリハリのある活動ができた。	力を合わせなければ進むことができないカッター研修ではより協力する大切さを学ぶことができた。午後は夕食のカレーとサラダ作りを実施した。ここでも班のみんなで協力してカレーを作ることであった。厳しい食器の点検があったが合格したときにはみんなで歓声を上げて喜びよい体験ができた。夜は2日間の活動のこと家族への思いを手紙に書いた。	所周辺の海岸を探索した。地層の見学やスケッチ, 海の生き物の観察, 漂着物などを調べた。所の先生から沖で取ってこられたたこをいただき実物に触れるという思いも寄らぬ機会にも恵まれた。奉仕活動では「来たときよりも美しく」を合い言葉にぴかぴかになるまで床をみがいた。

(後期) 於：十種ヶ峰青少年野外活動センター

	10月22日(月)	10月23日(火)	10月24日(水)	10月25日(木)	10月26日(金)
午前	りんご園体験活動 	十種ヶ峰ネイチャー トレイリング登山 	ディスクゴルフ 	森のチャレンジコース 	奉仕活動 退所式 
午後	入所式 自然観察 	オリエンテーリング 	(6年生入所式) 火おこし体験 	森のチャレンジコース 	津和野ハイク 
夜	天体観測 	ナイトソロ (家族への手紙) 	野外炊事 	あとう夢語太鼓 との交流会 	
概要	午前中、りんご園でりんご作りについてのお話を聞き、その後体験活動を行った。初めての子も多く、大喜びだった。自然散策では五感を研ぎ澄まして十種ヶ峰の自然に触れることができた。夜は寒い中でのテント泊だったが初めての子も多く大喜びだった。	れながら登山を行った。友だちと励ましながら山頂を目指した。下山しながらのオリエンテーリングでは山のなかを駆け回りポイントを探した。上手に役割分担をしている班もあった。全ての班が設定時間内にゴールすることができた。夜は2日間の活動のことや家族への思いを手紙に書いた。	自分たちで起こした火を使っての野外炊事。前期に続き2度目とあってどの班も手際よく準備、調理、片付けをすることができた。ナイトウォークでは夜の十種ヶ峰の自然に触れることができた。怖さから泣き出す児童もいたが班のみんなで励まし合いながら全員最後まで歩くことができた。	午前中はローエレメントを使い班のみんなで協力して課題を克服していった。午後はハイエレメントを使い個人個人が自分の目標に向かって恐怖心を克服しながら取り組んだ。見ている子どもたちも自分のことのように励ましや応援を行った。夜のあとう夢語太鼓の方との交流会では太鼓の素晴らしい演奏を聴いたあとグループに分かれて演奏会の練習を行った。全員初めての体験だったが夢語太鼓の方に親切に教えていただき、最後には素晴らしい演奏をすることができた。	お世話になったセンターをみんなできいにし、津和野ハイクに出発。最終日にもかかわらず全員元気に10kmを歩き抜いた。

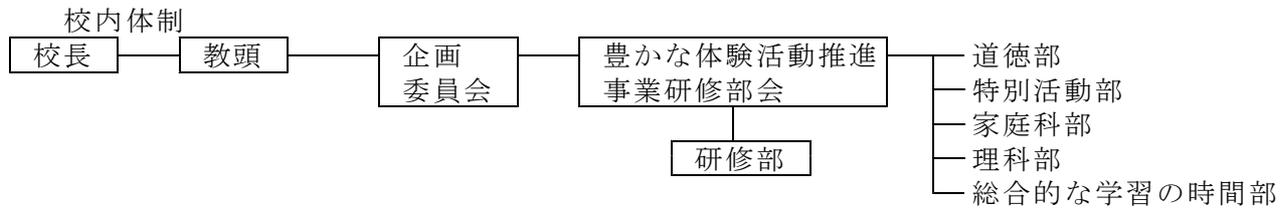
(3) 事後指導

- 自然体験学習の振り返りを行い、学んだことを作文や掲示資料にまとめた。
- お世話になった青年の家・あとう夢語太鼓・友清りんご園などへお礼の手紙を送った。
- 活動の様子をまとめたビデオを保護者、全校児童に上映した。

3 体験活動の実施体制

(1) 学校支援委員会

機関・団体名	
十種ヶ峰青少年野外活動センター	山口市立大海小学校学校評議委員
油谷青年の家	山口市立大海小学校 PTA
あとう夢語太鼓	山口市立大海小学校



(2) 配慮事項等

- ・自然体験学習を実施するにあたり、保護者への事前説明会を十分にいき、活動への理解と協力を求めた。また、児童の健康状態には特に気を遣い、保護者への事前健康調査をもとに養護教諭が児童一人ひとりと面談を行い健康面・精神面における心配ごとの把握に努めた。
- ・利用施設の見学を複数回行ったたり、施設指導者との打ち合わせを密に行うなどし、児童の安全確保に十分な配慮を行った。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- 毎日の活動の最後に、にこにこカード、一日の反省の時間を設け、その日の活動の中で周りの友達にしてもらったこと、また友達にしたことなどを自己評価させた。また、その日のうちに担任が自己評価に目を通し、コメントを添えて返すことで活動に対する賞賛や価値付けを行い、次の日の活動への意欲付けを行った。
- 体験活動後、児童・保護者を対象としたアンケート調査を行い、分析を行った。

5 活動の成果と課題

○成果

- ・2度の体験活動を通して子どもたちは友だちのよさ、自分の成長を感じることができた。
- ・海と山という異なる自然環境の中で新たな発見・感動を得ることができた。
- ・長期の宿泊をすることでさまざまな面で余裕が生まれ、子どもたちにも考える時間や再チャレンジする時間が生まれ、失敗しても取り戻すことや自分たちで成し遂げたという達成感も得ることができた。

<体験活動後の児童の感想>

- ・どの活動も大変で自分では何もできなくて困っているときみんなが助けてくれてうれしかったです。友達がいれば良かったなと思いました。
- ・だんだん時間がたつていくと家族の大切さも考えるようになりました。家でのことはみんなお母さんやお父さんがしてくれているけどどれだけ大変かもわかったような気がしました。なので、これからは手伝いもたくさんしたいなと思いました。
- ・一番こわかったのは高さ14mのJタワーです。私はこわくて頂上まで行けませんでした。こわくて涙も出てきました。でも、みんながすごく応援してくれたのでうれしかったです。
- ・森チャレ。最初からもめた。1回やってできなかった。その時はみんなが助け合う大切さを知らなかったからだと思う。何度も何度も話し合っとうまくできた。次の課題はすぐにできた。それは前の活動で友達と助け合う大切さを学んだからだと思う。午後からはJタワーをした。登れない友達があった。みんなもその子の気持ちを考えてビレーをした。その子の気持ちを考えたつもりだけけどみんな全部は分かってあげられてないよなと思った。

<保護者の感想>

- ・親元から長期離れることや友達と力を合わせて困難に立ち向かう。また、自分自身との戦いもあったと思います。この経験が自信や友達との信頼関係につながればよいと思っています。
- ・子どもにとって大変有意義な活動だったようです。家族にとっても日ごろを振り返る良い機会となりました。今後もこのような機会があるといいと思います。
- ・せっかくの貴重な体験なので感謝して参加し、自分を高めてくれたらとてもうれしいと感じていましたが、満足げな様子を見て本当にありがたかったです。何か、友達との関係も一段と良くなったような感じで安心しています。子どもの成長を感じることができてとても感謝しています。

○課題

- ・子どもたちにどんな力をつけさせたいか、そのためにはどんな活動を仕組むことが有効なのかをよく考え、さらに子どもたちの意見を聞いた上でのプログラム作成が必要だと思った。教師の思いや願いと合わせて、子どもたちがより自主的に活動し、活動の中からさらなる学びを得るためにはプログラム作成段階から活動を共に作り上げていくことが大切だと感じた。

2 自分やクラスのまわりについて

	○前期 (割合)	○後期 (割合)	○後期 (件数)
<友達>			
・友だちは協力していましたか? (4.6) → (4.6)	1	3	4
・友だちは、進んで行動していましたか? (4.5) → (4.5)	1	3	4
・友だちに助けてもらった? (4.7) → (4.7)	1	3	4
・友だちはまわりを守っていましたか? (4.1) → (4.2)	2	3	4
<自分>			
・自分は、友だちに協力できましたか? (4.5) → (4.4)	1	3	4
・自分は、進んで協力できましたか? (4.2) → (4.2)	1	3	4
・自分は、友だちを助けることができましたか? (4.4) → (4.5)	1	3	4
・自分は、まわりを守りましたか? (4.2) → (4.2)	2	3	4
・自分は、自然に楽しむことができましたか? (4.8) → (4.9)	2	3	4
・家族のことについて考えましたか? (4.7) → (4.5)	1	3	4
<総合的に>			
・自然体験学習は楽しかったですか? (5.0) → (4.9)	2	3	4

